

平成31年度 群馬県立太田フレックス高等学校  
第1回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：令和元年6月28日（金）14:00～16:00

議事等

1 開 会

2 校長挨拶

評議員を引き受けてもらいありがたい。忌憚のないご意見をいただきたい。4月からの勤務のため、皆さんから教えてもらうことが多いがお願いしたい。

3 委嘱状交付（敬称略）

加藤富士人、高山美幸、橋本まさ子、大畑千鶴、高橋博剛

4 自己紹介

5 授業見学

6 学校概要説明（校長）

○基本情報

- ・開講15年目になる。定時制Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部と通信制がある。Ⅰ部は午前、Ⅱ部は午後、Ⅲ部は夜間である。通信制は月2回スクーリングを実施している。単位制普通科である。
- ・学年制、ホームルームがなく、ゼミ担当がHR担任として対応している。
- ・授業は生徒の視点で行われており、生徒は自分の生活リズムで出席している。少人数授業には緊張感があるが、全て出席することが保証されているわけではなく、弾力的な学びの場となっている。

○教育目標・本校のニーズ

- ・教育目標は、「生涯学び続けることができる生徒の育成」である。
- ・中学校や前籍高で課題を抱えていた生徒や一度社会に出た人の学び直しの間という部分もある。
- ・「生きていればなんとかなる」という空気感を大切にしている。
- ・社会のルールが本校のルールという意識をもとに、生徒が社会に出る基礎を身に付けられるようにする。
- ・「子どもが毎日学校に行ってくれて嬉しい」という保護者の言葉もある。

○今年度の重点

- ・支援教育：支援委員会を開き、教職員の共通理解のもとに家庭との連携を図る。
- ・外国籍の生徒への対応：外国籍の生徒が2割弱在籍しており、言語の壁がある。NPOのGコミュニティに年30回講座を開いてもらっている。将来的には、Gコミュニティの講座をカリキュラムに入れたい。
- ・特に、Ⅲ部においては、今後の外国人労働者増加に対応できるようにしたい。また、企業訪問や企業情報交換会等で生徒募集のPRを今年度始めた。
- ・固定概念を覆す。学校経営の基本は、生徒・保護者・教職員そして地域が「わくわく」することである。様々な状況の生徒がいるが、「明るく楽しく元気よく」が基本である。
- ・地域の方の苦情を教育に反映させる。
- ・同窓会については、太田フレックス高校同窓会としての共通理解の元年としたい。

## 7 各部概要説明

### (1) I II部

#### ① 主な年間日程

- ・前後期制を採っている。
- ・秋季卒業式と秋季入学式があるのも特色である。
- ・入学者選抜が多い。秋季選抜、春季編入学選抜、前期選抜、後期選抜、状況により再募集がある。
- ・行事は少なめである。6月にレクリエーション大会、10月にチャレンジウォーク（定時制全体）、12月にフレックス発表会（定時制全体・ゼミ発表等）等がある。
- ・3月の受講登録指導では、卒業希望年数に応じて各自の時間割を作成する。

#### ② 進路状況

- ・やや少ない72名が卒業した。
- ・就職状況はよかった。
- ・進路状況の「その他」は気になるところであるが、まずは卒業しその後進路を決定する、進学できる金銭的準備をする等の生徒である。
- ・群馬大学に進学した生徒もいた。引き続きこのような結果を出し、外部へ発信したい。

#### ③ 生徒指導

- ・ゴミレンジャー（地域清掃活動）を2回実施するなかで地域と連携ができればよい。
- ・二者面談及び三者面談は、多様な生徒に対してじっくりと時間をかけて行っている。

#### ④ 進路希望状況

- ・卒業予定者数は100人と昨年度より多い。
- ・進学希望が5割と例年よりも多いのが特徴的である。

#### ⑤ 部活動

- ・8つの部活動と1つの同好会が活動している。
- ・バドミントン部、ソフトテニス部及び陸上競技部は全国大会に出場する。
- ・吹奏楽部は様々な会場で演奏活動を行っている。

#### ⑥ 開講ゼミ

- ・I部、II部それぞれ12のゼミがあり、約20名の生徒がいる。それぞれ特色ある活動をしている。

### (2) III部

#### ① 生徒状況

- ・現在63名の生徒が学習をしている。
- ・休みがちな生徒もいるが、半数の生徒が9割以上の出席率である。

#### ② 年間日程

- ・I II部と共通の行事も多い。
- ・III部独自のものとして、5月のIII部授業公開、9月の生活体験発表大会（8名のゼミ代表が発表し、上位2名が地区大会に出場）、10月の救急救命講演会（AED関係で今回が初めての実施）、11月の球技大会、そして、2月の予餞会等がある。
- ・16名が卒業した。その内2名は9月卒業であった。
- ・専門学校進学者4名、就職7名であった。
- ・その他は、アルバイトをして進学準備をする者が主であった。

#### ④ 卒業予定者

- ・18名が卒業予定者である。
- ・既に正規社員として働いている者もいる。大学・短大進学希望3名、専門学校進学希望5名、就職希望9名である。

#### ⑤ 部活動

- ・I II部と合同で活動をしており、ソフトテニス部以外はIII部生徒も所属している。
- ・部に所属している生徒は20名である。

- ⑥ 開講ゼミ
  - ・ゼミは8つあり1ゼミ10人くらいである。
  - ・ゼミの出席率は高く、生徒にとっての良い居場所となっている。
- ⑦ 就業状況
  - ・4月当初で34名の生徒がアルバイトをしている。
  - ・3名は正社員である。
- (3) 通信制
  - ① 在籍等
    - ・今年度63名が入学した。
    - ・328名が在籍しており、現在そのうち174名が学習活動に取り組んでいる。
  - ② 年間日程
    - ・年間16日スクーリングがある。
    - ・6月にアドベンチャーラリー（ウォークラリー・今年は90名弱が参加）、10月に校外学習（館林美術館）等がある。
    - ・映画鑑賞、避難訓練、美化活動、生活体験発表会等は、スクーリングに合わせて実施している。
  - ③ 進路状況
    - ・秋季卒業10名、春季卒業23名、合計33名が卒業した。
    - ・短期大学1名、専門学校5名、就職3名であった。数が少ないのは、元々働いている生徒も多いという現実もある。また、卒業が実感できてから動き出すという生徒、資金を貯めてから進学の準備をするという生徒やアルバイトをそのまま続けるという生徒もいる。
  - ④ 生徒指導
    - ・予定や生徒指導に関する内容を掲載した『フレックス通信』をスクーリングの度に配付している。欠席者には郵送している。
    - ・生徒同士が触れ合う機会や生徒と教員が顔を合わせる機会は少ないが、社会規範に従い自己責任のもとに行動できる生徒を育成している。

## 8 学校評価の説明

- (1) 定時制
    - ・完全単位制で自分で自分の時間割を作る。学年・学級がないがゼミがある。少人数制授業である。これらの本校の特色を特色で終わらせることなく魅力とするために、生徒が満足するように方策を設定している。
    - ・いじめ解消の確認まで3ヶ月かかり年度内には確認できない場合もあるため、いじめに関する項目は、「学校は、いじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である、と変更した。
    - ・進路指導に関わる2項目において、数値目標を75%から80%に上げた。さらに、進路指導の充実を図りたい。
    - ・基盤となるのは、個に応じた指導ときめ細かな指導である。
  - (2) 通信制
    - ・定時制同様に、いじめに関する項目は変更したが、それ以外の項目は昨年度からの変更はない。
    - ・特色、学習活動、学校生活、進路選択、開かれた学校づくりの各領域において、数値目標と方策により、取り組んでいきたい。
    - ・進路に関する「進路指導が信頼できる」の数値目標が70%と低めに設定してあるが、この数値目標を上げられるようにしたい。
- ※ 今後、学校評価アンケートを実施し、その結果を学校運営に活かしていきたい。

## 9 質疑

### ○ [質問]

- ・特色ある授業を見せてもらった。「みんなの数学」は学び直しの授業としての学校設定科目であるが、本人の申し出で決まるのか。

### [回答]

- ・本人の申し出とゼミ担任との話し合いで決まる。
- ・新入生は、入学準備説明会の際に実施する国数英の習熟度実態調査結果をもとに、生徒に勧める。基本的にその結果にそった受講となる。2年目以降の生徒も受講することもある。

### ○ [質問]

- ・学校評価に関連して、いじめに関しては本県の公立高校でも大きな事件があった。いじめ未然防止、早期発見及び対応には難しいところがある。全職員で取り組んでいる工夫や方針はあるか。

### [回答]

- ・いろいろな訴えが挙がってくる。関係する生徒の話をよく聞き、情報把握をしたうえで、関係者で対応を連携している。中心となるのは、生活指導係、教育相談係、スクールカウンセラーであるが、組織的に情報を共有し対応している。定期的にアンケートを行い、そこで挙がったものにも対応している。
- ・窓口となるように、校長室の扉は開けてあり、生徒が入ってきて、訴えることもあり、対応している。

### ○ [質問]

- ・生徒はどのように授業をとっているのか。

### [回答]

- ・基本的に1日90分2コマか90分3コマ授業をとることになる。3コマとると3年で卒業できる。

### ○ [質問]

- ・中学校時代に不登校を経験した生徒が太田フレックス高校ではよく登校していると聞か、その要因は何か。

### [回答]

- ・一つには、生徒が気持ちを新たに入学してくるということである。もう一つには、生徒間や生徒と教職員間がコミュニケーションをとる機会が多いということである。

## 10 意見拝受

○この取組には生徒の個別の状況に合わせようとする学校の姿勢が見られる。

○茶道は、体験しながら学べるものであり、また、その中で、コミュニケーション能力を高めることにもなっている。

○少人数授業で、生徒の表情がよい。先生が中まで入り指導している。生徒が楽しそうにしている。

○教育は難しいが、太田フレックス高校の先生はよくやっている。

○授業中の生徒のニコニコした表情がよい。先生と生徒の距離感がよい。

○女子は対人関係、男子はゲーム等で学校生活を送るのが難しいということがある。学校に来て、生徒が大人との関係ができると横（他の生徒）との関係もできる。何でもいいから仲間と作り上げる体験があるといい。友達とぶつかり合うという勉強を離れた所の活動が重要である。

○進学に関して、中高の連携がもっと必要である。

○生徒が、太田フレックス高校で頑張る、何年かけてもいいから卒業するという思いを持つことが必要である。

○今回初めて訪問し、中学校の時とは異なる笑顔がある生徒を見ることができた。太田フレッ

クス高校のよさを広めたい。

○竹澤イズムが浸透しているのが分かる。

○言葉をかけるかけられるという信頼関係がある。生徒が先生に親しみを持っている姿はよい。

○PTA役員をしていると、「本当にこの学校へ入学してよかったと思う」と喜んでいる人を見る。

○先生がきめ細かく生徒との距離を減らしており寄り添っている。

○様々な環境にある生徒を先生が支え、生徒には進学してもらいたい。

○人の中で生きていく、目の前にいる人とコミュニケーションをとる、人と人との信頼関係作る、人と付き合う等の方法を教えてくれていると思った。

○進学に関して資金の問題が挙がっていたが、大学の学費無償化の動きがある。情報把握をするとよい。

○支援の生徒が増加しているが、特別支援学校に入学せず太田フレックス高校に入学する。支援を学校全体でやるということは安心できる。

[学校補足説明]

・就学支援委員会というものがあり、特別支援学校高等部がいいのかどうかを論議するが、高等部への入学には保護者・本人の同意が必要である。特別支援学校高等部以外に入学できる者はその高校に入学し、特別支援計画を引継ぎ、社会に出られるようにする。

・身体に関しては、本校にはエレベーターがあり対応できる。

・支援に関しては、本校が特別というわけではなく、他の学校でもあることである。

## 11 諸連絡

○第2回は、年明けに予定しており、年末に日程調整したい。

○いつでも来校し意見を頂戴したい。

## 12 閉会